

「上郡町第6次総合計画（案）」にかかる パブリック・コメントの結果

- 意見等の募集期間：令和7年12月17日～令和8年1月16日
- 意見等の受付件数：2人6件（1名1件、1名5件）

意見等の概要と町の考え方

no.	意見等の概要	町の考え方
1	<p>（目標人口の根拠不足） 目標人口(2035年1万500人)が社人研推計より431人多いが、達成根拠や道筋が不明確。出生増で補う場合の必要数と指標が整合せず、産業指標も人口増との関連が弱い。社会増減改善は妥当だが、施策の実現性説明が不足。関係人口活用や先進手法導入を提案する。</p>	<p>【今後の取組の参考】 目標人口は出生数・社会増減等を踏まえた目指す姿です。 子育て支援・移住定住を強化し、関係人口の拡大や先進的手法の活用提案も参考に計画を実行します。</p>
2	<p>（資料編未掲載） 計画案に「資料編を追加予定」「写真等挿入予定」とあり、作りかけの印象を受ける。特に住民調査結果は判断資料のため、パブコメ募集時点で資料編を添付し閲覧可能にするなど、改善を求める。</p>	<p>【ご意見を反映しました】 資料編の添付について、より分かりやすく丁寧な情報提供となるよう対応していきます。なお、住民満足度調査結果については町HPでもご覧になれます。</p>
3	<p>（少子化対策の再整理） 遊び場や住環境整備だけでは出生率向上や若者定着に弱い。親の負担軽減、雇用の質向上、結婚・出産前の若者の所得支援(奨学金返済支援等)を重視し、子育て世帯が得と感じる大胆な対策を求める。</p>	<p>【今後の取組の参考】 切れ目ない子育て支援や給食費・医療費支援を継続して行い、さらに若者の雇用対策や所得支援策など、財源等を踏まえ施策を検討します。</p>
4	<p>（雇用施策の矛盾整理） 雇用創出の重要度が高く、町内は人手不足なのに、計画案が求人数増・町外人材受入・町外就労拡大を併記しており、矛盾するよう見える。町内雇用確保と町外就労促進の関係を整理し、総合的な方針へ見直しを求める。</p>	<p>【本文の趣旨に一致】 ご指摘の箇所について、本町では町外へ就労されている方が一定数いる一方、町内事業所では人材確保が課題となっている状況があります。 町内就労の環境整備に加え、通勤利便性を生かした町外人材の受入と、町民の町外就労の選択肢確保も双方必要との考え方から、このような本文の記載となっています。</p>
5	<p>（資源発掘と認定等による支援） 「地域資源の把握・活用」は何が魅力か町も町民も把握不足が課題。町外者の視点やニーズをSNS等で収集し、PR前に推奨資源(特産品・店・体験)を町が認定し、磨き上げる支援を提案する。</p>	<p>【今後の取組の参考】 町外の視点やSNS等で得られるニーズも踏まえ、地域資源の掘り起こしと町内外への情報発信・PRの強化に取り組みます。あわせて、町民が自信をもって薦められる特産品・店舗・体験等の磨き上げや、受け皿となる事業者・体験プログラムへの支援の在り方について、既存の施</p>

		策(土産品開発支援事業等)も含め、町の魅力をより発揮できる施策検討の参考とさせていただきます。
6	<p>(地域福祉の行政の役割)</p> <p>「町民の助け合い」で進める書き方を改め、行政の取組を明確にしてほしい。福祉には専門性が必要で、担い手が減少しているなかボランティア頼みは限界。若者に無償活動を求めると負担となり町を離れるきっかけにもなる。</p>	<p>【本文の趣旨に一致】</p> <p>計画案本文にも述べているとおり、「助け合いの重要性」は住民ワークショップ等で寄せられたご意見です。地域共生社会の考え方のもと、支え合いは住民同士の自発的な助け合いに加え、行政・専門職・関係機関・事業者等がそれぞれの役割を担い、連携して支援する体制をつくることが重要です。</p> <p>福祉には専門性が求められることから、ボランティアに過度に依存せず、行政が関係機関と連携して相談支援体制の推進と生活支援体制の構築を進め、必要な支援につなぐ仕組みを整備・運用します。</p> <p>あわせて、住民参加については、参加しやすい仕組みづくりや負担への配慮を行い、地域福祉への理解が深まり、支え合いの輪が広がるよう取り組んでまいります。</p>